

## 標語作成支援のためのスケルトン生成に関する研究

指導教員  
承認印

大谷 紀子 研究室  
0232214 水澤 愛

### 1 研究の背景と目的

「標語」とは、行政が特定の活動を進めたい場合もしくは企業が消費者に特定の問題に興味を持ってほしい場合などに活用する「キャッチフレーズ」のようなものである。広辞苑によると「主義・主張・信条などを簡明に言い表した短い語句。モットー。スローガン。」と記されている。

坂井[2]は『こうした「募集 発表」という行事は、次のような四つのプロセス段階において効用効果が顕著である。第一は、作品を募集する周知活動において「一般の関心を引き起こす」効果。第二は、応募者が作品を作る団塊で、対象となる「活動の目標や実行の必要性を強く認識する」効果である。第三としては、入選作品の選定発表段階において、さらに「一般の関心を広く強く引きつける」効果がある。第四は入選・非入選を問わず、公募参加者によるクチコミ効果である。』と述べている。

俳句、短歌などにふれる機会が少なくなった昨今では、初心者が急に優れた標語を作成するのは難しい。あらかじめ語呂のよい文字列を列挙したスケルトンを提示し、文字列を組み合わせることでより簡単に標語を作成することが可能である。本研究では標語を気軽に作成できるよう支援することを目的とし、標語スケルトンの生成手法を提案する。交通標語のスケルトンを生成するシステムを構築し、評価実験により提案の有用性を示す。

### 2 交通標語スケルトン作成

インターネット上で公開されている標語から頻出文字列を抜粋し、データベースを作成した。データベースの例を表1に示す。データベースは文字列の読み、文字列、関連性のある文字列1と2の4項目から成り立っている。文字列の読みは字数をはかるために必要とする。1つの文字列に関連性のある文字列が複数存在する場合は、文字列の読みと文字列に同じ文字列が並ぶ。例えば「青信号」に組み合わせ可能な文字列は「ちょっと待て・左右確認」「駆けこむな・命取り」の2組である。

表1：標語データベース

文字列の読み	文字列	関連性のある文字列 1	関連性のある文字列 2
あおしんごう	青信号	ちょっと待て	左右確認
あおしんごう	青信号	駆け込むな	命取り

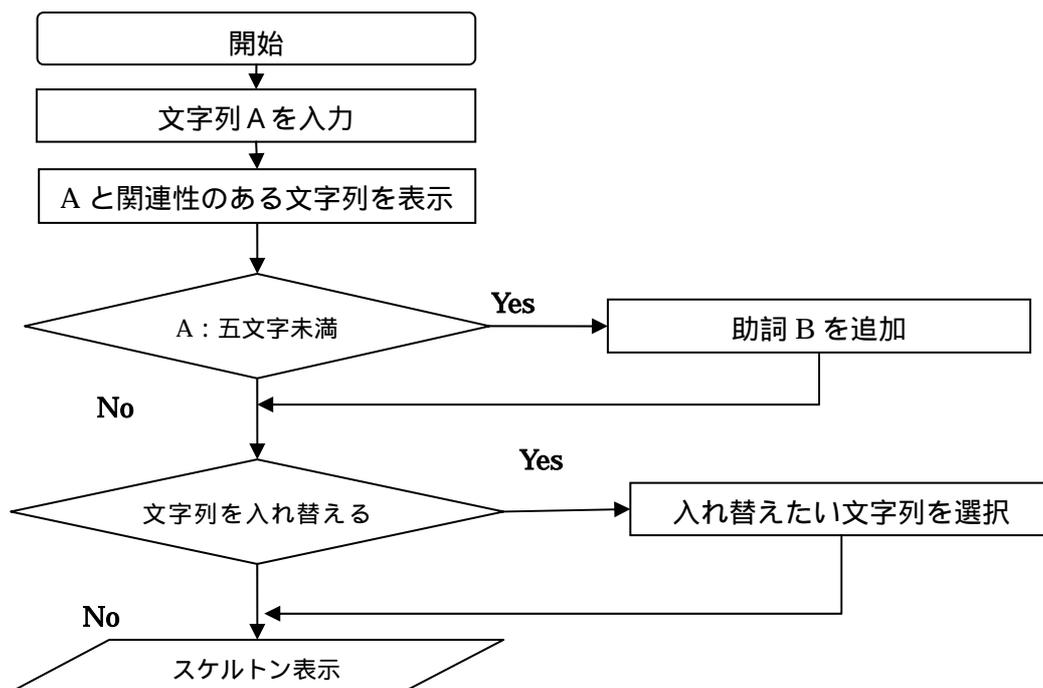


図 1 : スケルトン表示の流れ

スケルトン表示の流れを図 1 に示す。ユーザが文字列 A を入力すると、文字列 A が含まれる文字列を標語データベースから検索する。該当した場合、文字列と関連性のある文字列 1 と 2 を表示する。「文字列」が複数該当した場合は、ユーザに選択してもらう。「文字列」が 5 文字未満の場合は、助詞を付加するか選択する。付加する場合は助詞を入れる箇所と助詞を入力する。文字列を入れ替えたい場合は入れ替えたい箇所 2 つを選択すると、文字列が入れ替わる。

### 3 動作結果と考察

被験者は学生 2 人、主婦 2 人、社会人 2 人の計 6 名である。表示されたスケルトンをもとに実際に交通標語を作成してもらう。被験者が入力する文字列は「横断歩道」「信号機」「交差点」に偏っており、類似した標語が表示された。一般公募に応募できるような独自性が高い標語作成には至っていない。標語作成が苦手と答えた被験者は理由として「考えることが苦手」「興味がないから」が挙がっている。交通に関連のある文字列を思い浮かべる段階で時間を要する者が多く、最初からスケルトン一覧を見たいという要望があった。関連性のある文字列の語句が足りないようである。以上のことから標語作成が苦手な被験者には、文字列一覧から任意で選択するという形式のほうが合っていると思われる。比較的得意と答えた被験者は「パッとひらめく」など直感的に思い浮かぶ場合が多いようである。システムの最初で「文字列」を限定してスケルトンを表示すると、スケルトンの語句に影響され次の語句が思い浮かばなくなる傾向がみられた。今後の課題として、選択可能な文字列一覧を提示し、文字列の語数に関係なく言葉を付加できるようにする必要がある。

### 参考文献

- [1] 是沢 輝昭, “ビジネス標語塾”, 日本経団連出版, 1996.
- [2] 坂井尚, “「標語」の上手な作り方”, 東洋経済新潮社, 1997.